

**CONTENTS**

- 活動報告・各種会議議事録
- 第39回通常総会
- 会員異動
- 学会関連カレンダー
- 学会主催会議等の詳細
- 平成27・28年度日本農薬学会役員選挙について

平成25年度第4回常任評議員会議事録

日 時：平成25年11月30日（土）13:30～17:15

場 所：日本植物防疫協会 地下会議室

出席者：会長，副会長，常任評議員 計12名

議 事：

I. 平成25年度第3回常任評議員会議事録について確認した。

II. 経過報告および議事

1. 財務関係

- ・平成25年度収支の現状（1月1日から11月30日まで）について報告があった。全体として順調に推移しているが、本年度は会報刊行費の減少のため予算に余裕が生じる可能性がある。

2. 編集委員会

- ・第186回常任編集委員会および読み物企画委員会の合同委員会（11月2日）の議事内容の説明があった。
- ・JPS第38巻4号の発刊とJPSおよび農薬誌の第39巻1号の発刊予定の説明があった。

3. 環境委員会

- ・平成25年度残留農薬分析セミナー（11月9日，近畿大学）の開催結果と次回の同セミナー（2月7日，東京都農林総合研究センター）の準備状況の報告があった。
- ・農薬に関する一般向けの情報発信を活動目的として，ワーキンググループ（WG）を設立することが提案され，今後検討していくこととした。

- ・農水省の消費・安全局植物防疫課との連携について説明があった。

4. 将来計画委員会

- ・学術会議公開シンポジウム「学協会の新公益法人法への対応の現状と展望」での講演内容について説明があった。大規模な学協会は法人化へ移行済みであるが，1091団体中の75%以上を占める任意団体のうち，75%以上は法人へ未移行であり，その70%程度の方針は未定または現状維持である。

5. ホームページ委員会

- ・活動状況について報告があった。

6. 学会賞受賞者選考委員会

- ・平成25年10月5日に開催された第2回学会賞受賞者選考委員会について報告があった。選考結果の報告があった。厳正な審査の結果，業績賞（研究）1件，業績賞（技術）2件，奨励賞2件を受賞候補として決定した。また，編集委員会より推薦された一編を論文賞候補として決定した。
- ・上記の学会賞受賞候補に対する評議員の審査結果が報告され，平成26年度学会賞受賞者を決定した。

7. 日本農学会関連

- ・平成25年度第3回運営委員会が12月13日に予定されている。
- ・平成25年度の評議員会が平成26年1月24日に開催され，会長・副会長の選挙が実施される予定である。

8. 学術会議関連

- ・植物保護科学連合と主催で開催された平成25年度日本学術会議シンポジウム「新しい植物保護技術への展望」（11月16日）の報告があった。
- ・日本昆虫科学連合と学術会議の共同シンポジウム（熊本大学）において講演を行う本学会員への交通費支出が承認された。

9. 三学会および日植防協会関係

- ・平成25年11月27日に行われた三学会の事務打合せおよび日植防との打合せにおいて以下が協議された旨報告があった。
- ・三学会事務打合せ：①各学会大会（次回，次々回）

- の開催日程の確認 ②三学会の連携への取り組み ③技術士育成推進委員会（五学会連携）への取り組み状況と情報交換の緊密化について ④各学会の法人化への取り組み ⑤電子投票システム導入について ⑥次年度の三学会関係の担当幹事は日本農薬学会が務める。
- ・日植防協会と三学会事務との打合せ：①平成26年度の日植防協会への事務管理費（人件費および事務費）補てん金について ②大会開催予定の確認と事務職員の出張について ③会員情報システムにおける電子投票システムの導入について
 - ・平成25年11月27日に行われた三学会会長懇談会での議事内容として以下が報告された。①平成25年度日本農学賞について ②日本学術会議および日本植物保護科学連合について ③各学会の運営状況、大会開催予定について ④三学会の連携・協力について（大会の相互乗り入れ） ⑤法人化への取り組みについて ⑥事務打合せでの協議内容の確認。
 - ・三学会の大会開催予定は下記の通り。

日本植物病理学会	平成26年6月2日～4日
(北海道大学)	
日本応用動物昆虫学会	平成26年3月26日～28日
(高知大学)	
日本農薬学会	平成26年3月13日～15日
(京都大学)	
10. 電子投票システムによる選挙について
- ・電子投票システムの開発業者との打合せについて説明があった。
 - ・平成26年度の役員・評議員選挙では電子投票システムと投票用紙による投票を併用することとし、電子システムを使用しない会員から申し出てもらうこととする。
 - ・上記の手続きのため、通例よりも早めに選挙管理委員会を設置することとした。
11. 学術小集会関連
- ・学術小集会の講演要旨の管理については、学会全体として対応していくことが提案され、継続して検討することとした。
 - ・講演要旨集を国立国会図書館へ納本することを各学術小集会に依頼することを決定した。
12. 国際会議関連
- ・2014年8月にサンフランシスコで開催される第13回農薬化学国際会議（IUPAC 2014）の準備状況について説明があった。
 - ・IUPAC2014参加者の渡航費補助の申請・選考スケジュール、および補助額等が確認された。
13. 農薬科学研究補助金関連
- ・平成26年度農薬科学研究補助金の申請が締め切れ、今後、スケジュールにしたがって審査に付されることが報告された。
14. 農薬学会大会関係
- ・第39回大会開催について、大会実行委員長より準備が順調である旨の報告があった。
 - ・第39回大会において開催される技術士試験対策セミナーの概要について説明があった。
 - ・日本植物病理学会、日本応用動物学会に加え、今大会では新たに日本雑草学会、植物化学調節学会の会員も会員待遇で大会に参加・発表できることが承認された。日本雑草学会が本学会員の大会参加を正会員扱いで受け入れる提案が承認された。
 - ・総会資料作成スケジュールと評議員会開催時間等が検討された。
15. 入退会の報告（平成25年9月1日～平成25年11月15日）
- ・入退会が承認された。入会は正会員5名、学生会員1名、団体会員1社。退会は正会員9名、学生会員1名。
16. 終身会員の推薦
- ・終身会員の候補者について検討した。
17. 第40回記念行事について
- ・記念事業として既刊学会誌等のアーカイブ化を行うことが確認された。
 - ・記念事業及び研究者の海外派遣助成のため、財務委員会を中心として企業または個人から寄付を募ることが検討された。
18. その他
- ・なし
- 平成25年度第5回常任評議員会議事録**
- 日 時：平成26年2月8日（土）13:00～17:20
場 所：日本植物防疫協会 地下会議室
出席者：会長、副会長、常任評議員 計10名
議 事：
- I. 平成25年度第4回常任評議員会議事録について確認した。
II. 経過報告および議事
1. 財務関係
- ・平成25年度収支について報告があり、収支計算書の内容を確認した。
 - ・平成25年度会計の監査を2月17日（月）に学会事務局において実施する。
 - ・平成26年度予算案が提示され、その内容を検討した。

2. 編集委員会
 - ・JPS第39巻1号の発刊の説明があった。
 - ・平成25年度の投稿審査状況について報告があった。
 3. 環境委員会
 - ・平成25年度の活動状況について説明があった。
 - ・平成25年度残留農薬分析セミナー（関東）（2月7日、東京都農林総合研究センター）の開催結果について報告があった。
 - ・農薬の理解推進に向けた活動について、ワーキンググループ（WG）設立と活動方針について検討した。
 - ・他機関（農水省 消費・安全局植物防疫課、食品安全委員会、農薬工業会、環境省）との連携の取り組み状況について報告があった。
 4. 将来計画委員会
 - ・活動状況について説明があった。
 5. ホームページ委員会
 - ・活動状況について報告があった。
 6. 日本農学会関連
 - ・平成25年度第3回日本農学会運営委員会（12月13日）について報告があった。
 - ・平成26年度第1回日本農学会評議員会（1月24日）について報告があった。三輪睿太郎氏が新会長に選出された。7名の日本農学賞・読売農学賞受賞者が決定された。
 - ・公益財団法人日本農学会の技術者教育推進委員会（1月14日）について報告があった。
 7. 国際学会等の協賛について
 - ・平成26年6月9日（月）～13日（金）に文部科学省 研究交流センター（茨城県つくば市）で開催予定の第10回幼若ホルモン国際会議を協賛することを承認した。
 8. IUPAC2014について
 - ・2014年8月にサンフランシスコで開催される第13回農薬化学国際会議（IUPAC 2014）の準備状況について説明があった。
 - ・参加者に対する渡航費補助の募集開始と選考予定について報告があった。
 9. 役員・評議員選挙について
 - ・平成26年度に実施される役員・評議員選挙の選挙管理委員会は、有江力氏を委員長として進めることが了承された。
 10. 農薬学会大会関係
 - ・第39回大会の総会・評議員会等のスケジュール・内容・会場等について確認された。
 - ・第39回大会の総会資料を検討した。
 11. 入退会の報告（平成25年11月16日～平成26年1月31日）
 - ・入退会が承認された。入会は正会員23名、学生会員24名。退会は正会員40名、学生会員2名、団体会員4件。
 12. 設立40周年記念行事について
 - ・記念事業として、記念講演および既刊学会誌等のアーカイブ化について検討された。
 - ・記念事業及び研究者の海外派遣助成のための企業または個人からの寄付について検討した。
 13. その他
 - ・なし
- III. 平成26年度農薬科学研究補助金交付者選考二次審査
- ・平成26年度農薬科学研究補助金（平成25年11月29日応募締切）への8件の申請に対する一次審査結果について報告があった。
 - ・常任評議員会にて二次審査を実施し、2件に交付を行うことを決定した。
 - ・当研究補助金の今後の在り方について意見交換を行った。

第40回編集委員会議事録

日 時：平成26年3月12日（水）14:15～15:45

会 場：京都大学農学部 旧演習林事務室ラウンジ

出席者：20名

議 事：

- (1) 平成25年以降の掲載状況、投稿審査状況
 - 1) 38巻の掲載状況を確認した。（総会資料参照）
 - 2) 2013年にはJPSに90編の投稿があり、国内からが24編、国外からが66編（中国、インド、イランを含む17か国）であった。その内訳は、報文（70編）、ノート（13編）、技術資料（5編）、総説（2編）で、このうち掲載可が26編、審査中が11編である（2014. 3. 3. 現在）。また、農薬誌には3編（報文2編、技術資料1編）の投稿があり、すべて掲載済みである。
 - 3) 2014年にはJPSに21編の投稿があり（2014. 3. 3. 現在）、国内からが4編、国外からが17編である。その内訳は、報文（18編）、ノート（3編）である。このうち掲載可が10編（国外からの投稿のみ）、審査中が11編である。また農薬誌には1編（ノート、掲載否）の投稿があった。
- (2) ダウンロード状況

インターネットによる学会HPのアクセス数は、Topへのアクセスが1040件など例年より低かったにもかかわらず、論文pdfのダウンロード数は5570件で、過去5年間で最も多かった。
- (3) 電子ジャーナル、電子投稿システムに関して

英文誌 (JPS) のJ-Stageでの公開形式を、39巻より Full Text HTMLに変更した。和文誌 (農薬誌) は、JPSとは異なる新たなウェブサイトとしてJ-Stageでの公開を開始した。EM電子投稿システムでの剽窃チェックツール (Cross Check) の活用、discussion機能の活用、査読後の流れについて、EMシステムにアクセスして検討した。

(4) 読み物企画に関して

今後の掲載が予定されている1) 実験技術講座、2) 解説、3) ミニレビュー、4) 上記以外の解説等 (執筆の了解を頂いているもの3仮題) について審議した。現在検討中の企画は「i) 近年の農薬開発」および「ii) 化学物質の関連法規」である。

(5) 投稿細則などの改正

JPSの「INSTRUCTIONS FOR AUTHORS」の(15)と(16)を2014年3月12日付けで改定した。農薬誌の『投稿細則』は、平成26年3月12日付けで、(7)、(16)、(17)を改正した。

(6) 海外の編集委員に関して

オーストラリア・クイーンズ大学Dr. Phong K. ThaiのOverseas Editorへの就任を承認した。

(7) 将来構想

MEDLINEに収録されるための課題を検討する。

(8) その他

- 1) 投稿論文のカラーページに関して、ウェブ公開のpdfは無料であるが、紙媒体への印刷代の著者の負担も軽減し1ページ1万円とする。
- 2) 第13回IUPAC農薬化学国際会議 (サンフランシスコ) の報告記事に関して、執筆者ならびにとりまとめ責任者について検討した。

第40回評議員会議事録

日 時：平成26年3月12日 (水) 16:00～17:20

場 所：京都大学農学部・北部総合教育研究棟 (益川ホール)

出席者：浅見会長、米山副会長、三富副会長、與語副会長、宮本監事、評議員43名、委任状34通 (合計77名)

出席者が定足数に達していることを確認したのちに会則第29条に則り浅見会長を議長として議事を進行した。

議 事：

1. 平成25年度会務報告

- ・第39回通常総会資料および第40回評議員会資料に基づき、総務・編集・渉外・学会賞選考および役員選挙の各項目について委員長または担当常任評議員が報告を行い、質疑を受けたのち、異議なく承認された。

2. 平成25年度会計報告

- ・第39回通常総会資料に基づき、収支決算について担当常任評議員が報告を行ったのち、宮本監事から収支決算の内容が的確であったとの会計監査結果が報告された。以上の報告について質疑を受けたのち、異議なく承認された。

3. 平成26年度事業計画

- ・事業計画案および収支予算案について担当常任評議員が説明を行い、質疑を受けたのち、原案の通り承認された。

4. 細則の改定

- ・日本農薬学会細則第10条の改定について浅見会長より説明され、原案通り承認された。

5. 終身会員の推薦について

- ・終身会員として木村俊夫氏が推薦され、承認された。

6. 第40回記念大会について

- ・第40回記念大会を平成27年3月18～20日に玉川大学 (東京都町田市) において開催することが承認された。

7. その他

- ・40周年記念事業について浅見会長より、記念講演、既刊出版物の電子化、国際学会渡航費補助を計画していること、その経費のため寄付事業を実施することが報告され、承認された。

第39回通常総会議事録

平成26年3月13日 (木) 午前9時45分より、京都大学・百周年時計台記念館 (京都府京都市) において、第39回通常総会が開催された。会則第24条に則り浅見会長を議長として議事を進行した。

議 事：

1. 平成25年度事業報告および決算報告

- ・総務・編集・渉外・学会賞選考の各項目について各担当者が報告を行った。次いで、収支決算について会計担当者が報告を行ったのち、内田監事から収支決算の内容が的確であったとの会計監査結果が報告された。以上の報告について質疑を受けたのち、異議なく承認された。

2. 平成26年度事業計画および収支予算について

- ・事業計画案および収支予算案について各担当者が説明を行い、質疑を受けたのち、原案の通り承認された。

3. 終身会員の推薦について

- ・第40回評議員会において終身会員1名が承認され

た旨報告があった。

4. 第40回記念大会について

- ・第40回記念大会を平成27年3月18～20日に玉川大学（東京都町田市）において開催することが承認された。

5. その他

- ・40周年記念事業について浅見会長より、記念講演、既刊出版物の電子化、国際学会渡航費補助を計画していること、その経費のため寄付事業を実施することが報告され、承認された。

資料：

I 会務報告

1. 総務関係報告

1) 会員異動（平成25.1.1～平成25.12.31）

	平成24年	平成25年12月31日現在			増減 (△減)
	12月31日 現在	国内	国外	計	
名誉会員	17	20	2	22	5
終身会員	54	52	0	52	△2
正会員	1136	1119	20	1139	3 ^a
学生会員	40	43	1	44	4 ^b
維持会員	38	38	0	38	0
(口数)	(75口)	(75口)		(75口)	0口
団体会員	88	87	0	87	△1
購読会員	40	9	28	37	△3

^a入会者：87名，退会者：65名，会費未納者：19名

^b入会者：16名，退会者：6名，会費未納者：6名

2) 会誌の発行

発行および頒布部数（平成25.1.1～平成25.12.31）

誌-巻-号	農業誌-	JPS-	農業誌-	JPS-
	38-1	38-1,2	38-2	38-3,4
発行部数	1520	1520	1520	1520
会員頒布	1401	1401	1401	1401
一般購読	37	37	37	37
寄贈	28	28	28	28
広告・PR	10	10	10	10
事務用	2	2	2	2
保存用	5	5	5	5
計	1483	1483	1483	1483
残存部数	37	37	37	37

3) 日本農薬学会第38回大会

- (1) 第38回大会：平成25年3月14日（木）に筑波大学・大学会館ホールにおいて、総会、名誉会員推挙式、学会賞授賞式、受賞講演（奨励賞2題、業績賞（技

術）3題），特別講演会（2題）が行われた。翌3月15日（金）～16日（土）には筑波大学第3エリアA棟において、一般講演（90題），シンポジウム（3件），ランチョンセミナー（4件）が行われた。参加者総数は550名であった。

- (2) 第38回通常総会：平成24年度会務報告，会計報告，会計監査報告および終身会員・顧問の推薦の報告が行われ，平成24年度事業報告および決算，平成25年度事業計画および収支予算（案），名誉会員，日本農薬学会大会第39回大会（平成26年，京都府京都市）の開催が承認された。また，平成25年度日本農薬学会賞（奨励賞，業績賞）および論文賞の授賞式が行われた。（25.3.14）

4) 役員会の開催

- (1) 第39回評議員会：平成24年度会務報告，会計報告および役員選挙結果報告が行われ，平成25年度事業計画および収支予算（案），会長指名による役員，名誉会員・終身会員，日本農薬学会大会第39回大会（平成26年，京都府京都市）の開催が承認された。（25.3.13）
- (2) 常任評議員会：6回（25.4.27, 7.27, 9.7, 11.30, 26.2.8, 3.12）

5) 専門委員会など

- (1) 第40回編集委員会：（26.3.12）
- (2) 常任編集委員会：4回 [25.4.3～6.26（メール会議），8.3, 11.2（読み物企画委員との合同），26.2.1～2.12（メール会議）]
- (3) 日本農薬学会賞受賞者選考委員会：1回（25.10.5），メール会議複数回
- (4) 財務委員会：メール会議数回
- (5) 第39回大会組織委員会：3回（25.6.8, 10.2, 26.2.1）
- (6) 将来計画委員会：メール会議数回
- (7) 環境委員会：2回（25.6.8, 12.18）
- (8) HP委員会：メール会議数回
- (9) 農薬科学研究補助金交付者審査会議：一次審査（25.12.16～26.1.24メール会議），二次審査（26.2.8）
- (10) 学術小集会委員長と常任評議員との懇談会：1回（25.9.7）
- (11) 三学会長懇談会：1回（25.11.27）
- (12) 日本植物防疫協会と三学会との懇談会：1回（25.11.27）

6) 技術士育成推進委員会

- 1回の委員会が開催された（25.10.7）。

2. 編集関係報告

1) 「日本農薬学会誌」掲載原稿数および頁数

巻号	掲 載 原 稿 数							計	頁 数
	投稿論文	解説	受賞論文	実験技術講座	ミニレビュー	シンポジア	その他		
38-1				2	4	5	3 ^a	14	99 ^b
38-2	1 ^c	5	6	2	5	2	4 ^d	25	142 ^e
合 計	1	5	6	4	9	7	7	39	241

a : 特別記事1編, 英文編掲載論文和文要旨1編, 追悼文1編.

b : この他に大会案内を掲載 (25頁).

c : 報文.

d : 英文編掲載論文和文要旨2編, 追悼文1編, 2012年投稿論文審査員へのお礼1編.

e : この他に会則等を掲載 (17頁).

2) 「Journal of Pesticide Science」掲載原稿数および頁数

巻号	掲 載 原 稿 数							計	頁 数
	総説	報文	短報	速報	技術資料	受賞論文	その他		
38-1	2	1	3					6	47
38-2	2	3	2				1 ^a	8	47 (+3) ^a
38-3		6	5			5		16	82
38-4		5	4		1		5 ^b	15	75 (+16) ^b
合 計	4	15	14		1	5	6	45	251 (+19)

a : Instructions for authors.

b : Contents of Volume 38 (JPS および農薬誌), Keyword Index, Author Index, Instructions for authors.

3) 論文賞

候補1件を, 学会賞受賞者選考委員会に推薦した.

4) 投稿細則等の一部改正

編集上の利便さを高めるために, 投稿細則と Instructions for Authors の一部を改正した.

5) その他

- (1) 受付論文数 (2013年): 和文3編, 英文90編 (内、国内からの投稿24編)
- (2) 学会誌インパクトファクター (過去5年間の平均値): 0.818
- (3) 電子ジャーナル掲載論文の月平均ダウンロード数: 約5,500件
- (4) 英文誌 (JPS) の J-Stage での公開形式を, 38巻より Full Text HTML に変更した.
- (5) 和文誌 (農薬誌) は, JPS とは異なる新たなウェブサイトとして J-Stage での公開を開始した.
URL : <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjpestics>

3. 渉外・企画関係報告

1) セミナーの開催

- (1) 残留農薬分析セミナーの開催: 近畿大学 (奈良県奈良市, 25.11.9), 東京都農林総合研究センター (東京都立川市, 26.2.7).
- (2) 残留農薬分析 Q&A セミナーの開催 (「残留農薬分析 知っておきたい問答あれこれ」改訂版刊行記念): 東京家政大学 (東京都板橋区, 25.3.22), 大阪薬業会館 (大阪府大阪市, 25.7.25)

2) 農薬科学研究補助

農薬科学研究に対する研究補助金 (1件50万円) を平成25年度は以下の2件の研究に対し交付した.

- (1) 山本幸治氏 (九州大学大学院農学研究院): ステロイド還元酵素構造情報を礎とした昆虫成長阻害剤の創製基盤
- (2) 春原由香里氏 (筑波大学生命環境系): オーキシシン型除草剤キククロラックの作用機構の解析

3) 学術小集会

- (1) 農薬残留分析研究会 (第36回): 秋田市にぎわい交流館 (秋田県秋田市) で開催。「昨日より上質な分析を目指して」をテーマにシンポジウムを開催した。シンポジウム講演3題, 特別講演1題, ポスター25題 (6題については口頭発表も実施) の発表が行われた。参加者は約210名であった。(25.10.24~25)
- (2) 農薬製剤・施用法研究会 (第33回): 静岡県コンベンションセンター/グランシップ (静岡県静岡市) で開催。特別講演5題に加え, 技術研究発表およびポスター発表が行われた。(25.9.12~13) 第38回日本農薬学会大会 (茨城県つくば市) において「農薬製剤・施用法の歩みと今後の展望」をテーマとしたシンポジウムを共催した。(25.3.16)
- (3) 農薬環境科学研究会 (第31回): エクシブ琵琶湖 (滋賀県米原市) で開催。「農薬の環境負荷軽減をめざした取り組みと展望」をテーマとして, 1題の特別講演, 7題の講演と総合討論, 8題のポスター発表, ならびに見学会が行われた。ベストポスター賞として1題を表彰した。参加者は89名であった。(25.11.21~22)
- (4) 農薬生物活性研究会 (第30回): 東京農業大学 (東京都世田谷区) において30回記念大会を開催。「殺菌剤編」, 「殺虫剤編」および「除草剤編」の3部構成として, それぞれ過去10年間の動向を総括し, 特別講演1題を含む合計11題の講演が行われた。(25.4.19)
- (5) 農薬デザイン研究会 (第28回): メルパルク京都 (京都府京都市) で開催。「21世紀を担う農薬をデザインする ~そのヒントを求めて」をテーマに4題の講演が行われたほか, 22題のポスター発表が行われた。(25.11.8)
- (6) 農薬レギュラトリーサイエンス研究会 (第21回): 東京農業大学 (東京都世田谷区) にて「農薬の残留 (作物・土壌) に関する登録制度及び評価の在り方」をテーマにリスク評価・リスク管理の観点から幅広く討論した。(25.12.9)
- (7) 農薬バイオサイエンス研究会: 日本農薬学会第39回大会 (京都大会) においてシンポジウムを共催するため, 例年12月に開催しているシンポジウムは行わなかった。

4) 学術小集会以外の研究会等

- (1) 構造活性フォーラム2013 (協賛): 神奈川県横浜市 (25.6.28)
- (2) 日本学術会議公開シンポジウム「昆虫分類学の新たな挑戦」(日本学術会議農学委員会応用昆虫学分科会, 日本昆虫科学連合 主催): 福岡県福岡市 (25.7.20)

- (3) 第28回報農会シンポジウム (協賛): 東京都北区 (25.9.26)
- (4) 平成25年度日本農学会シンポジウム「農学イノベーション—新しいビジネスモデルと食・農・環境における技術革新—」: 東京都文京区 (25.10.5)
- (5) 第30回製剤と粒子設計シンポジウム (協賛): 岐阜県岐阜市 (25.10.17~10.18)
- (6) 日本学術会議公開シンポジウム「新しい植物保護技術への展望」(日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会, 植物保護科学連合 主催): 東京都文京区 (25.11.16)
- (7) 第5回国際O-CHA学術会議 (後援): 静岡県静岡市 (25.11.6~11.8)
- (8) 第41回構造活性相関シンポジウム (協賛): 兵庫県西宮市 (25.11.7~8)

4. 日本農薬学会賞受賞者選考委員会報告

1) 奨励賞, 業績賞 (研究, 技術)

評議員ならびに学術小集会委員長より推薦された奨励賞2課題, 業績賞 (研究) 1課題, 業績賞 (技術) 3課題について慎重公正なる選考を行った結果, 以下の5課題を各賞の候補と決定した。

【奨励賞】

早坂大亮氏 (近畿大学)

「水田メソコスムによる生物群集に及ぼす殺虫剤の影響に関する研究」

伊藤晋作氏 (東京農業大学)

「ストリゴラクトン機能を制御する化合物の創製研究」

【業績賞 (研究)】

井藤和人氏 (島根大学)

「土壌中における農薬分解菌の生態と農薬が及ぼす影響評価に関する研究」

【業績賞 (技術)】

高垣真喜一氏 尾崎正美氏 藤本修一氏 福本俊一郎氏 (クミアイ化学工業株式会社, イハラケミカル工業株式会社, 株式会社ケイ・アイ研究所)

「新規殺菌剤「ピリベンカルブ」の開発」

森田雅之氏 米田哲夫氏 秋吉信行氏 (石原産業株式会社)

「殺虫剤「フロニカミド」の研究開発」

2) 論文賞

編集委員会より推薦された論文について慎重公正なる審査

を行い、候補を決定した。

「Probabilistic assessment of herbicide runoff from Japanese rice paddies: The effects of local meteorological conditions and site-specific water management」

Kei KONDO, Julien BOULANGE, Thai Khanh PHONG, Kazuaki HIRAMATSU, Tsuyoshi INOUE and Hirozumi WATANABE (Tokyo University of Agriculture and Technology, University of Queensland, Kyushu University, Water Supply Au-

thority of Southern Fukuoka Prefecture) Vol. 37, No. 4, pp. 312–322 (2012)

5. 平成26年度日本農業学会賞および論文賞受賞者の決定

学会賞受賞者選考委員会で選考された日本農業学会賞各賞および論文賞候補について、評議員の投票により授賞が決定した。

II 会計報告

収支計算書

平成25年1月1日から平成25年12月31日まで

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
会費収入	17,674,000	18,094,438	△420,438	
正会員会費収入	8,744,000	9,192,000	△448,000	会費納入者増
学生会員会費収入	102,000	96,000	6,000	
海外会員会費収入	108,000	108,938	△938	
団体会員会費収入	870,000	875,000	△5,000	
購読会員会費収入	350,000	322,500	27,500	
維持会員会費収入	7,500,000	7,500,000	0	
会報刊行収入	1,360,000	1,251,164	108,836	
頒布収入	40,000	67,000	△27,000	
広告料収入	320,000	200,000	120,000	1社減(4社)
著者負担金収入	1,000,000	984,164	15,836	
事業収入	20,820,000	21,629,328	△809,328	
大会運営収入	5,600,000	5,782,084	△182,084	
学術小集会運営収入	12,270,000	13,205,344	△935,344	7研究会合計
環境委員会 収入	2,950,000	2,641,900	308,100	
雑収入	110,000	453,071	△343,071	
預金利息収入	10,000	7,600	2,400	
雑収入	100,000	445,471	△345,471	名誉会員松村文夫氏ご遺族からの寄付
事業活動収入計	39,964,000	41,428,001	△1,464,001	
2. 事業活動支出				
会報刊行費支出	10,860,000	8,637,367	2,222,633	
旅費交通費支出	250,000	82,840	167,160	遠方者旅費減
通信運搬費支出	10,000	7,650	2,350	
消耗品費支出	100,000	119,742	△19,742	
印刷製本費支出	8,000,000	6,001,386	1,998,614	和・英別冊化
編集費支出	1,800,000	1,747,714	52,286	
学会誌送料支出	700,000	678,035	21,965	
総会・大会費支出	6,450,000	5,495,416	954,584	
学術小集会費支出	12,490,000	13,121,779	△631,779	7研究会合計
環境委員会支出	2,410,000	1,422,790	987,210	
HP管理費支出	2,800,000	2,605,615	194,385	会員システム導入
学会賞関係費支出	1,000,000	1,020,070	△20,070	
学術交流費支出	400,000	319,650	80,350	
国際学術交流費支出	500,000	0	500,000	
試験研究補助金支出	1,000,000	1,000,000	0	2件採択
事業運営費支出	2,200,000	1,212,070	987,930	
会議費支出	700,000	432,990	267,010	
旅費交通費支出	1,500,000	779,080	720,920	遠方者旅費減
管理費支出	4,360,000	4,435,601	△75,601	
旅費交通費支出	100,000	66,100	33,900	
通信運搬費支出	400,000	335,822	64,178	
消耗品費支出	200,000	380,330	△180,330	封筒印刷機更新
事務管理費支出	3,310,000	3,310,000	0	
印刷費支出	50,000	42,000	8,000	
雑支出	300,000	301,349	△1,349	
事業活動支出計	44,470,000	39,270,358	5,199,642	
事業活動収支差額	△4,506,000	2,157,643	△6,663,643	

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差異	備 考
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定資産取崩収入	3,000,000	0	3,000,000	
積立調整基金口取崩収入	2,500,000	0	2,500,000	取崩なし
国際学術交流基金取崩収入	500,000	0	500,000	取崩なし
投資活動収入計	3,000,000	0	3,000,000	
2. 投資活動支出				
特定資産取得支出	0	300,000	△300,000	
寄付基金口取得支出	0	300,000	△300,000	寄付金を基金へ移行
投資活動支出計	0	300,000	△300,000	
投資活動収支差額	3,000,000	△300,000	3,300,000	
III 財務活動収支の部				
当期収支差額	△1,506,000	1,857,643	△3,363,643	
前期繰越収支差額	2,869,816	2,869,816	0	
次期繰越収支差額	1,363,816	4,727,459	△3,363,643	

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収金、仮払金、未払金、前受金及び預り金を含めている。

なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産および負債の内訳

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	7,584,024	9,420,220
未収金	1,464,950	1,097,947
仮払金	1,110,900	1,490,812
合 計	10,159,874	12,008,979
未払金	1,161,798	864,364
前受金	6,124,260	6,417,156
預り金	4,000	0
合 計	7,290,058	7,281,520
次期繰越収支差額	2,869,816	4,727,459

貸借対照表

平成25年12月31日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	9,420,220	7,584,024	1,836,196
現金	395,688	329,589	66,099
普通預金	7,126,420	5,424,376	1,702,044
振替貯金	1,898,112	1,830,059	68,053
未収金	1,097,947	1,464,950	△367,003
仮払金	1,490,812	1,110,900	379,912
流動資産合計	12,008,979	10,159,874	1,849,105
2. 固定資産			
特定資産			
積立調整基金	13,224,379	13,224,379	0
国際学術交流基金	13,885,042	13,885,042	0
寄付基金	7,764,117	7,464,117	300,000
特定資産合計	34,873,538	34,573,538	300,000
固定資産合計	34,873,538	34,573,538	300,000
資産合計	46,882,517	44,733,412	2,149,105
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	864,364	1,161,798	△297,434
前受金	6,417,156	6,124,260	292,896
預り金	0	4,000	△4,000
流動負債合計	7,281,520	7,290,058	△8,538
負債合計	7,281,520	7,290,058	△8,538
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	39,600,997	37,443,354	2,157,643
正味財産合計	39,600,997	37,443,354	2,157,643
負債及び正味財産合計	46,882,517	44,733,412	2,149,105

正味財産増減計算書

平成25年1月1日から平成25年12月31日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	18,094,438	18,411,473	△ 317,035
正会員会費	9,192,000	9,360,000	△ 168,000
学生会員会費	96,000	106,000	△ 10,000
海外会員会費	108,938	98,973	9,965
団体会員会費	875,000	890,000	△ 15,000
講読会員会費	322,500	456,500	△ 134,000
維持会員会費	7,500,000	7,500,000	0
会報刊行収益	1,251,164	1,671,571	△ 420,407
頒布収益	67,000	37,000	30,000
広告料収益	200,000	545,000	△ 345,000
著者負担金益	984,164	1,089,571	△ 105,407
事業収益	21,629,328	21,494,756	134,572
大会運営収入	5,782,084	5,799,000	△ 16,916
学術小集会運営収入	13,205,344	13,279,306	△ 73,962
環境委員会 収入	2,641,900	2,416,450	225,450
雑収益	453,071	134,388	318,683
預金利息	7,600	9,116	△ 1,516
雑収益	445,471	125,272	320,199
経常収益計	41,428,001	41,712,188	△ 284,187
(2) 経常費用			
会報刊行費	8,637,367	10,111,999	△ 1,474,632
旅費交通費	82,840	182,650	△ 99,810
通信運搬費	7,650	6,060	1,590
消耗品費	119,742	88,159	31,583
印刷製本費	6,001,386	7,731,982	△ 1,730,596
編集費	1,747,714	1,480,009	267,705
学会誌送料	678,035	623,139	54,896
総会・大会費	5,495,416	5,949,000	△ 453,584
学術小集会費	13,121,779	14,798,028	△ 1,676,249
環境委員会	1,422,790	3,151,684	△ 1,728,894
HP管理費	2,605,615	810,115	1,795,500
学会賞関係費	1,020,070	430,540	589,530
学術交流費	319,650	320,800	△ 1,150
国際学術交流費	0	1,520,000	△ 1,520,000
試験研究補助費	1,000,000	1,000,000	0
事業運営費	1,212,070	2,132,405	△ 920,335
会議費	432,990	647,521	△ 214,531
旅費交通費	779,080	1,484,884	△ 705,804

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
管理費	4,435,601	4,351,218	84,383
旅費交通費	66,100	125,680	△59,580
通信運搬費	335,822	409,223	△73,401
消耗品費	380,330	196,848	183,482
事務管理費	3,310,000	3,297,000	13,000
印刷費	42,000	35,700	6,300
雑費	301,349	286,767	14,582
経常費用計	39,270,358	44,575,789	△5,305,431
当期経常増減額	2,157,643	△2,863,601	5,021,244
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	2,157,643	△2,863,601	5,021,244
一般正味財産期首残高	37,443,354	40,306,955	△2,863,601
一般正味財産期末残高	39,600,997	37,443,354	2,157,643
II 指定正味財産増減の部			
III 正味財産期末残高	39,600,997	37,443,354	2,157,643

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

消費税等の会計処理は税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
積立調整基金口	13,224,379	0	0	13,224,379
国際学术交流基金	13,885,042	0	0	13,885,042
寄付基金口	7,464,117	300,000	0	7,764,117
合 計	34,573,538	300,000	0	34,873,538

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
積立調整基金口	13,224,379	(0)	(13,224,379)	(0)
国際学术交流基金	13,885,042	(0)	(13,885,042)	(0)
寄付基金口	7,764,117	(0)	(7,764,117)	(0)
合 計	34,873,538	0	(34,873,538)	(0)

財 産 目 録

平成25年12月31日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	金	額
(流動資産)		
現金	395,688	
預金		
普通預金	7,126,420	
三井住友銀行白山支店	5,113,537	
ジャパンネット銀行	499,839	
CITIBANK	656,465	
三井住友銀行白山支店	856,579	
振替貯金	1,898,112	
未収金	1,097,947	
仮払金	1,490,812	
総会・大会	850,000	
編集事務局	110,344	
農薬製剤施用法研究会	150,000	
農薬環境科学研究会	57,697	
農薬生物活性研究会	112,579	
農薬デザイン研究会	49,692	
農薬バイオサイエンス研究会	150,000	
環境委員会	10,000	
デポジット料金	500	
流動資産合計	12,008,979	
(固定資産)		
特定資産		
積立調整基金	13,224,379	
三井住友銀行白山支店定期	13,224,379	
国際学術交流基金	13,885,042	
三井住友銀行白山支店定期	13,885,042	
寄付基金	7,764,117	
三井住友銀行白山支店定期	6,964,117	
CITIBANK	300,000	
ジャパンネット銀行定期	500,000	
固定資産合計	34,873,538	
資産合計		46,882,517
(流動負債)		
未払金	864,364	
前受金	6,417,156	
正会員	6,384,000	
学生会員	16,000	
海外会員	17,156	
流動負債合計	7,281,520	
負債合計		7,281,520
正味財産		39,600,997

III 会計監査報告

平成25年度日本農薬学会の事業報告および決算について監査の結果、的確であることを認めます。

平成26年2月17日

監事 宮本 徹 印
内田 又左衛門 印

IV 議事

1. 平成25年度事業報告および決算の承認

2. 平成26年度事業計画および収支予算(案)

1) 会誌の発行：日本農薬学会誌 第39巻，第1号～第2号
Journal of Pesticide Science 誌 第39巻，第1号～第4号

2) 第39回大会の開催：26.3.13～15，京都大学（京都府京都市）

3) 日本農薬学会賞および論文賞の授与

4) 専門委員会の開催

- (1) 編集委員会
- (2) 常任編集委員会
- (3) 日本農薬学会賞受賞者選考委員会
- (4) 財務委員会
- (5) 第40回記念大会組織委員会
- (6) 将来計画委員会
- (7) 環境委員会
- (8) HP委員会
- (9) 農薬科学研究奨励金交付者審査会議（一次および二次）
- (10) 選挙管理委員会

5) セミナーの開催

- (1) 残留農薬分析セミナー 2014を開催予定（2回程度，開催地および日時未定）
- (2) 農薬の安全性等に関する出張セミナー・講師派遣を予定

6) 学術小集会，講演会等の開催

- (1) 農薬残留分析研究会：第37回農薬残留分析研究会を仙台国際センター（宮城県仙台市）において開催。

(26.10.16～17)

- (2) 農薬製剤・施用法研究会：第34回農薬製剤・施用法研究会を神戸国際会議場（兵庫県神戸市）において開催。（26.9.11～12）
- (3) 農薬環境科学研究会：第32回農薬環境科学研究会を静岡県焼津市において開催。（26.11.20～21）研究会のテーマは「陸域生態系と農薬」。
- (4) 農薬生物活性研究会：第31回シンポジウムを東京農業大学（東京都世田谷区）において開催。（26.4.25）
- (5) 農薬デザイン研究会：第29回農薬デザイン研究会を静岡県熱海市において開催（26.11.6～7）
- (6) 農薬レギュラトリーサイエンス研究会：第22回シンポジウムを12月に開催予定（開催地は東京都，詳細日時未定）
- (7) 農薬バイオサイエンス研究会：第11回シンポジウムを「生命と農薬科学：ターゲットを知る」をテーマとして日本農薬学会第39回大会（京都府京都市）と共催。（26.3.15）第12回シンポジウムを12月に開催予定。（開催地および詳細日時未定）

7) 農薬科学研究補助金の交付

農薬科学研究に対する研究補助金（1件50万円）を平成26年度は以下の2件の研究に対し交付する予定である。

- (1) 柴田哲男氏（名古屋工業大学大学院工学研究科）：農薬基幹物質の価格破壊：フルオロホルムのC-H活性化とトリフルオロメチル化反応の開発
- (2) 乾 秀之氏（神戸大学自然科学系先端融合研究環境遺伝子実験センター）：農薬などの脂溶性汚染物質により引き起こされるウリ科作物の汚染メカニズムの解明

8) 第13回IUPAC農薬化学国際会議参加者に対する渡航費補助

9) 平成27・28年度日本農薬学会役員選挙

10) 平成26年度収支予算(案)

平成26年1月1日から平成26年12月31日まで

(単位:円)

科 目	26年度予算	前年度予算額	予算額増減	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
会費収入	17,778,000	17,674,000	104,000	
正会員会費収入	8,872,000	8,744,000	128,000	
学生会員会費収入	96,000	102,000	△6,000	
海外会員会費収入	110,000	108,000	2,000	
団体会員会費収入	830,000	870,000	△40,000	
購読会員会費収入	370,000	350,000	20,000	
維持会員会費収入	7,500,000	7,500,000	0	
会報刊行収入	1,210,000	1,360,000	△150,000	
頒布収入	50,000	40,000	10,000	
広告料収入	160,000	320,000	△160,000	和・英別冊化
著者負担金収入	1,000,000	1,000,000	0	
事業収入	19,208,000	20,820,000	△1,612,000	
大会運営収入	5,600,000	5,600,000	0	
学術小集会運営収入	12,955,000	12,270,000	685,000	7研究会合計
環境委員会 収入	653,000	2,950,000	△2,297,000	
雑収入	108,000	110,000	△2,000	
預金利息収入	8,000	10,000	△2,000	
雑収入	100,000	100,000	0	
事業活動収入計	38,304,000	39,964,000	△1,660,000	
2. 事業活動支出			0	
会報刊行費支出	9,710,000	10,860,000	△1,150,000	
旅費交通費支出	100,000	250,000	△150,000	遠方者旅費減
通信運搬費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費支出	100,000	100,000	0	
印刷製本費支出	7,000,000	8,000,000	△1,000,000	和・英別冊化
編集費支出	1,800,000	1,800,000	0	
学会誌送料支出	700,000	700,000	0	
総会・大会費支出	6,450,000	6,450,000	0	
学術小集会費支出	13,908,000	12,490,000	1,418,000	7研究会合計
環境委員会支出	867,000	2,410,000	△1,543,000	
HP管理費支出	1,360,000	2,800,000	△1,440,000	Web選挙システム導入
学会賞関係費支出	500,000	1,000,000	△500,000	
学術交流費支出	400,000	400,000	0	
国際学術交流費支出	3,000,000	500,000	2,500,000	IUPAC渡航補助
試験研究補助金支出	1,000,000	1,000,000	0	
選挙関連費	200,000	0	200,000	改選費用
事業運営費支出	1,300,000	2,200,000	△900,000	
会議費支出	500,000	700,000	△200,000	
旅費交通費支出	800,000	1,500,000	△700,000	遠方者旅費減
管理費支出	4,484,000	4,360,000	124,000	
旅費交通費支出	100,000	100,000	0	

科 目	26年度予算	前年度予算額	予算額増減	備考
通信運搬費支出	400,000	400,000	0	
消耗品費支出	300,000	200,000	100,000	英文封筒更新
事務管理費支出	3,334,000	3,310,000	24,000	
印刷費支出	50,000	50,000	0	
雑支出	300,000	300,000	0	
事業活動支出計	43,179,000	44,470,000	△1,291,000	
事業活動収支差額	△4,875,000	△4,506,000	△369,000	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定資産取崩収入	1,500,000	3,000,000	△1,500,000	
積立調整基金口取崩収入	0	2,500,000	△2,500,000	
国際学術交流基金取崩収入	1,500,000	500,000	1,000,000	
投資活動収入計	1,500,000	3,000,000	△1,500,000	
2. 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	1,500,000	3,000,000	△1,500,000	
III 財務活動収支の部				
当期収支差額	△3,375,000	△1,506,000	△1,869,000	
前期繰越収支差額	4,727,459	2,869,816	1,857,643	
次期繰越収支差額	1,352,459	1,363,816	△11,357	

11) その他

3. 終身会員の推薦

会則第7条2項により、木村 俊夫 氏を終身会員に推薦し、評議員会において承認された。

4. 日本農薬学会第40回記念大会（平成27年）

第40回記念大会を平成27年3月18～20日に玉川大学（東京都町田市）において開催する。

5. その他

会 員 異 動

（平成25年9月1日～平成26年1月31日）

入 会

正会員

柴田 哲男 古屋 昌義 清遠 亜沙子 野村 誠

細羽 美奈子 河原崎 海 佐々木 浩子 庄司 俊彦
 神山 英夫 折本 浩平 籠原 裕磨 保田 亮二
 池田 健太郎 菊池 一郎 尾崎 正美 小山 一秋
 秋本 真友子 中井 隆志 辻 敏昭 三宅 圭
 常松 順子 宇佐美 智巳 鈴木 倫太郎 中西 希
 玉井 龍二 白石 晃代 加藤 貴央

学生会員

永崎 果鈴 中谷 有里 石田 実希 坂元 祥子
 白井 郁也 木村 祐 村上 園実 村上 真一郎
 浦尾 翔太 早川 浩臣 菅野 暉子 大西 秀幸
 河野 裕之 西峯 貴之 田中 隼紀 安田 吉将
 鈴木 悟 松下 智久 岡部 淳 神保 崇子
 吉本 理子 高島 麻都花 前田 慶 林 剛志

Bipulbehari Saha

団体会員

味の素株式会社

（受付順）

退会

U R L : <http://www.taiseikin.jp/symposium/>

終身会員

與良 清

正会員

長谷川 宏	直原 一男	栗原 信治	最勝寺 俊英
戸村 直文	渡邊 嘉久	松井 宣夫	山田 哲平
石居 尊司	青木 こずえ	筑紫 寛明	古市 尚高
符阪 隆文	萩野 哲	花井 陽介	市川 有二郎
今村 圭一	角 康一郎	金子 稔彦	加藤 重博
川上 晃司	近藤 直彦	久保 義昭	草野 洋輔
松浦 邦昭	嶺 昭彦	宮崎 昭雄	鍋谷 佳彦
中山 章	小田 輝	本田 勉	雑賀 修
櫻井 昭寿	佐藤 敏明	薩摩 孝次	関根 豊
芝本 繁明	和田 豊仁	藪田 五郎	片桐 和臣
山下 和宏	松本 博之	大北 達哉	大野 春香
宅間 範雄	平島 康	松野 倫也	永井 宏幸
安西 正人	阿久津 四良	深田 久成	長谷部 信行
石川 忠博	笠神 威雄	片岡 智	松嶋 俊紀
森川 悌	中野 亜弓	染谷 潔	
TranDang Xuan		植田 拓也	原田 米一
丹羽 啓誌	小泉 理恵子	藤原 弘和	樋口 敏幸
平山 潤太	Junghun, OK	神田 忠茂	井上 和美
鈴木 聡子	藤田 寛之	田中 一之	

学生会員

浅野 拓也 杉田 豊 孫 立倉

海外会員

Wright, Brent

団体会員

(株)理研グリーン 山形大学生協同組合農学部店
栃木県保健衛生事業団 (社)ぎふ、クリーン農業研究センター

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催、共催、協賛する会議等

2014年

6月

2日(月)～4日(水)平成26年度日本植物病理学会大会
主 催：日本植物病理学会
会 場：札幌コンベンションセンター [〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1丁目1-1]
U R L : <http://www.knt.co.jp/ec/2014/ppsjs/kyousan.html>

5日(木)第24回殺菌剤耐性菌研究会シンポジウム
主 催：日本植物病理学会
会 場：北海道大学クラーク会館 [〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目]

9日(月)～13日(金)第10回幼若ホルモン国際会議

主 催：第10回幼若ホルモン国際会議運営事務局
会 場：文部科学省 研究交流センター [〒305-0032 つくば市竹園2-20-5]
U R L : <http://www.nias.affrc.go.jp/JH10/index.html>

23日(月)琉球大学2014年「創薬シンポジウム」

主 催：琉球大学
会 場：琉球大学50周年記念会館 [〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地]
U R L : http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ_info/eventinfo/index.html#2014041601

7月

14日(月)～18日(金)第14回国際ダニ学会議

主 催：国際ダニ学会評議員会
会 場：京都テルサ [〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70番地]
U R L : <http://ica14.acarology-japan.org>

8月

10日(日)～14日(木)第13回IUPAC 農薬化学国際会議
主 催：IUPAC, ACS-AGRO
会 場：San Francisco Marriott Marquis [780 Mission Street, San Francisco, California 94103 USA]
U R L : <http://www.iupac2014.org>

9月

11日(木)～12日(金)第34回農薬製剤・施用法研究会

主 催：日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会
会 場：神戸国際会議場国際会議室 [〒850-0046 神戸市中央区港島中町6-9-1]
U R L : <http://pssj2.jp/committee/seizai/seizai34.html>

10月

16日(木)～17日(金)第37回農薬残留分析研究会

主 催：日本農薬学会 農薬残留分析研究会
会 場：仙台国際センター [〒980-0856 宮城県仙台市青葉区青葉山無番地]
U R L : <http://pssj2.jp/committee/zanryu/zanryu37.html>

18日(土)～19日(日)植物化学調節学会第49回大会

主 催：植物化学調節学会
会 場：京都大学農学部 [〒606-8502 京都市左京区北白川追分町]
U R L : <https://www.jsrjp.jp/category/calendar/years>

27日(月)～30日(木) 第11回エコバランス国際会議
主 催：日本LCA学会
会 場：つくば国際会議場 [〒305-0032 茨城県つくば市
竹園2-20-3]
U R L : <http://ilcaj.snitt.or.jp/EcoBalance2014/index.html>

11月

6日(木)～7日(金) 第29回農薬デザイン研究会
主 催：日本農薬学会 農薬デザイン研究会
会 場：ホテルニューアカオ [〒413-8555 静岡県熱海市
熱海1993-250]
U R L : <http://pssj2.jp/committee/design/design29.html>
13日(木)～14日(金) 第42回構造活性相関シンポジウム
主 催：日本薬学会構造活性相関部会
会 場：くまもと森都心プラザ [〒860-0047 熊本市西区
春日1-14-1]
U R L : http://bukai.pharm.or.jp/bukai_kozo/jindex.html

24日(月)～26日(水) International Conference of Asian
Environmental Chemistry 2014
主 催：日本環境化学会
会 場：Chulabhorn Research Institute [54 Kamphaeng Phet
6 Talat Bang Khen, Lak Si Bangkok 10210 Thailand]
U R L : <http://www.prime-pco.com/icaec2014/index.html>

2015年

3月

18日(水)～20日(金) 第40回日本農薬学会大会
主 催：日本農薬学会
会 場：玉川大学 [〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1]
U R L : <http://pssj2.jp/congresses/thisyear.html>

8月

24日(月)～27日(木) 第18回国際植物保護会議
(IPPC2015)
主 催：International Association for the Plant Protection
Sciences (IAPPS)
会 場：Free University Berlin [Henry Ford Building,
Garystraße 35, 14195 Berlin-Dahlem/Germany]
U R L : [http://www.ippc2015.de/general-information/
welcome-note/](http://www.ippc2015.de/general-information/welcome-note/)

学会主催会議等の詳細

第10回幼若ホルモン国際会議
(10th International Conference on Juvenile Hormones)
今年6月9日～13日につくば市で第10回幼若ホルモン

国際会議10th International Congress on Juvenile Hormones
(JH10) が開催されます。記念すべき10回会議は初のアジ
ア開催となります。詳細はURLをご覧ください。

事前登録と講演申込みは4月末で終了していますが、会場
での参加登録も受け付けます。皆様、奮ってご参加・ご発表
下さいますようお願い申し上げます。

主 催：第10回幼若ホルモン国際会議運営事務局
共 催：独立行政法人 農業生物資源研究所
協 賛：日本応用動物昆虫学会, 日本農薬学会, 日本農芸化
学会, 日本昆虫科学連合
日 時：平成26年6月9日(月)～13日(金)
会 場：文部科学省 研究交流センター [〒305-0032 つく
ば市竹園2-20-5]
TEL: 029-851-1331 FAX: 029-856-0464
http://www.next.go.jp/a_menu/kokusai/kouryucenter/

U R L : <http://www.nias.affrc.go.jp/JH10/>
問合せ先：第10回幼若ホルモン国際会議運営事務局
〒305-8634 茨城県つくば市大わし1-2
農業生物資源研究所 昆虫科学研究領域内 塩月
孝博
TEL: 029-838-6079 FAX: 029-838-6028
E-mail: jh10@nias.affrc.go.jp

第37回農薬残留分析研究会

主 催：日本農薬学会 農薬残留分析研究会
日 時：平成26年10月16日(木)～17日(金)
会 場：仙台国際センター [〒980-0856 宮城県仙台市青
葉区青葉山無番地]
TEL: 022-265-2211 FAX: 022-265-2485
<http://www.sira.or.jp/icenter/>
交 通：JR仙台駅より徒歩30分または市営バス10分(博物
館・国際センター前下車)。
U R L : <http://pssj2.jp/committee/zanryu/zanryu37.html>

プログラム：

10月16日(木)
13:00～13:05 開会挨拶
13:05～15:05 シンポジウム「残留農薬分析の現状につ
いて」
3講演(衛生研究所, 農薬登録の分析機
関などから演者を依頼)
15:05～16:05 企業セミナー「定性分析について(仮)」
16:05～17:10 ポスターセッション
17:10～17:50 特別講演「宮城県から1題・震災関係の
話題」

18:00 ~ 20:00	情報交換会	IPM 現地実証圃場見学等)
10月17日 (金)		
9:00 ~ 10:00	ポスターセッション	参加, ポスター発表および企業展示の申し込みは8月頃に
10:00 ~ 11:30	ポスター発表の中から口頭発表 (6題)	受け付ける予定です. ポスター発表の要旨は9月上旬の締め
11:30 ~ 11:35	閉会挨拶	切りを予定しています. 皆様, 奮ってご参加・ご発表くださ
12:00 ~ 16:00	エクスカージョン (50名程度, 先端プロ	いますようお願い申し上げます.

平成27・28年度日本農薬学会役員選挙について

平成26年10月に平成27・28年度日本農薬学会役員選挙が実施される予定です。今回から、インターネットを利用して投票するWeb投票システムが導入されます。会員の皆様には大変便利なWeb投票システムを是非ご利用くださいますようお願いいたします。ただし、導入後初めての選挙となる今回は、これまで通りの投票用紙の郵送による投票もできます。郵送での投票をご希望の方には、事前にその旨を申請していただくこととなりますが、その申請方法の詳細は次号ニュースレター（2014年第3号）にてあらためてお知らせします。この申請がない場合は、自動的にWebでの投票となります。特にインターネット環境の整っていない会員の方には、忘れずに郵送による投票のご申請をお願いします。

Web投票システムと郵送を使用する会員の内訳は下記の通りとなります。

(1) Web投票システムによる投票

- ・インターネット環境が整っていて会員情報サービスにログイン可能な会員

注1) ログインには会員番号とパスワードが必要です。会員番号は学会からの郵便物とお知らせメールの宛名部分に記載されています。パスワードが不明の方は、会員専用ページ「パスワードお忘れのかたはこちらへ」から再発行して下さい。

注2) メールアドレス未登録の方は、できる限り登録するようお願いします。（メールアドレスを登録していなくてもWeb投票を受け付けますが、この場合、投票完了確認のための通知メールが受信できません）

(2) 郵送による投票（この場合、郵送投票の事前申請が必要です）

- ・インターネット環境が整っていない会員
- ・Web投票システムが利用できるが郵送での投票を希望する会員

なお、本会規定により、平成26年5月31日の時点で平成26年度の会費を納入していない方には選挙権・被選挙権が認められませんので、会費を支払われていない会員の皆様には会費納入を5月末日までに済ませて下さいますようお願いいたします。

日本農薬学会選挙管理委員会

初夏、九頭竜川では若鮎の銀鱗が踊るが、その周囲は黄金色の秋模様である。麦秋である。つい数年前は水田ばかりであった所もで驚く。田植え後の青みがかかる水面に黄色に浮かぶのも美しいが、平野のそこそこに30-40haに広がる一面の麦穂が風に揺れ金色に輝くのには圧倒される。また、勢いよく伸びる青麦は桜より早く春を運んだ。北陸は、東北とともに人口あたり米生産量の上位にあるが、麦茶や麦飯用の六条大麦では全国の2/3を占める。戦後はコメが大増産されたが、大麦は70年代からの減反政策で増加し、93年の米の大凶作でほぼ皆無になったものが、再び、徐々に増えてきた。今後の減反政策やTPPの影響は、生産者の生活だけでなく、私達の季節感にまで及ぶのであろう。

さて今号では、通常の記事以外に、大会の総会資料、役員選挙の案内が掲載されている。今年度は投票方法の変更があるので、ご留意されたい。

発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

TEL: 03(5980)0281 FAX: 03(5980)0282

E-mail: nouyaku@mocha.ocn.ne.jp